

# 平成26年度 自己評価表

愛媛県立南宇和高等学校  
学校番号（49）

教育方針	21世紀社会の形成者を目指して、大いなる文化の創造と発展に寄与する自主的精神に満ちた、心身ともに健康な生徒の育成に努める。	重点目標	感動のある教育活動の実践 — 使命 情熱 思いやり — Mission Passion Compassion
------	---	------	--

領域	課	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	教務	○学習習慣の確立	・家庭学習時間の確保 120分以上	B	各学年、平常日は90分未満、考査発表時は120～150分程度学習している。類型によって学習時間が異なっており、学習への意識付けの徹底が必要である。	各教科において具体的な予習・復習及び週末課題の指示を工夫する。また、個人面接やホームルーム活動等で家庭学習の徹底を促す。
		○教科指導の充実	・生徒が「分かる授業」の実践 80%以上 ・教職員の相互授業参観 3回以上	B	全校の85%以上が授業の説明は「分かる」と回答している。1年生の授業理解度を更に上げることが望まれる。教職員の相互授業参観は春と秋の公開授業時に一人2回ずつ実施した。	教科会を更に活用することにより、生徒の「授業が分かる」という実感が学力の伸長につながるよう、引き続き教科指導の充実に取り組む。
生 徒 指 導	生徒	○基本的生活習慣の確立	・皆勤率 50%以上 ・さわやかな挨拶ができる生徒 100%	B	皆勤率の目標値は現時点で達成できている。その反面さわやかな挨拶ができる生徒の数が最近減少しているように思える。挨拶は人間関係を作る玄関である。更なる指導をしていきたい。	目標達成のため、生徒会活動、HR活動を通して更なる啓発を行いたい。また、PTA理事会、総会などでも保護者に家庭での協力をお願いしたい。
		○特別活動の充実	・県総体・県高文祭出場 100% ・生徒会行事満足度 90%以上	B	クラス数減少の中で、県総体出場者数は近年では最高の200名を越えた。また、県高文祭においても、すばらしい発表ができた。生徒会を中心に学校行事においても、成果を上げている。	次年度は、クラス減に伴い教員の数も減少することが考えられる。今後、指導者の数と部活動の数との関係で、文化部、体育部の掛け持ちも考えなければならない。
進 路 指 導	進路	○就職指導の充実	・就職相談・面接指導の充実を図り就職決定率 100% ・進路意識を高めるための外部講師講話 年2回以上	A	厳しい就職戦線だったが、2月末日現在、就職決定率100%を達成できた。また、外部講師の活用にも力を入れ、面接練習等を実施した。	エチケット・マナーについて共通理解の下、指導する。 より多くの教員が就職支援に関わり、きめ細かく対応する。
		○進学指導の充実	・課外授業の充実と学力の定着を図り進学決定率 100% ・進路意識を高めるための外部講師講話 年2回以上	B	0、7限の課外実施で、生徒の学力は伸びているが、習熟度の違いで、その伸びが少ない生徒もおり、個々の指導にも工夫をしていく必要がある。また、各学年で外部講師による講話やガイダンスを実施した。	学習習慣を定着させるための指導法について教科会で検討する。 「総合的な学習の時間」の活用について、更に研究を進める。

教	総務	○PTA活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会への参加率 30%以上</li> <li>・PTA活動への参加率(延べ数) 50%以上</li> </ul>	B	PTA総会の参加率は13.2%、活動参加率は39.1%と数値目標は達成できなかったが、体育祭・文化祭への参加、取組状況などから、活性化されたと評価できる。	行事の開催日の検討や保護者への周知方法の工夫により、参加者を増やすようにする。
	図研・情報	○読書による幅広い教養と視野の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書冊数 年間6,000冊以上</li> <li>・図書館の活用促進</li> </ul>	B	司書が常駐していない状況であり、開館が昼休みや放課後と限られ、図書館の活用や読書などの工夫が更に必要であるとともに、「朝読」の更なる活用の工夫が必要である。	課員の配置等の工夫により、改善に努めていきたい。
	人権・同教	○人権・同和教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームルーム活動後の生徒感想文・意見文提出 100%</li> <li>・各種校内研修会の教職員参加率 100%</li> </ul>	B	全クラスでホームルーム活動にしっかり取り組むことができた。また校内研修においても全教職員で人権・同和教育について考えを深めることができた。	しっかりしたホームルーム活動及び校内研修が継続するように、生徒・教職員の感性に訴える教材の提供を行う。
	保健環境	○校内環境美化の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間いっぱい清掃に取り組む生徒 100%</li> <li>・ごみの分別 100%</li> </ul>	B	放送部による清掃5分前の呼び掛けを継続している。生徒の意識も高まり、自主的な取組になってきた。	清掃時間中の音楽放送を工夫し、気持ち良く取り組めるようにする。
育	教育相談	○特別支援教育の確立 ○学校カウンセリングの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育委員会 学期2回以上</li> <li>・個別面談 学期2回以上</li> <li>・学校生活アンケート 学期1回以上</li> </ul>	B	特別支援教育委員会を3回実施するとともに、特別支援学校と連携を図りながら情報交換・研修会を実施した。個別面談は各学期2回以上実施した。学校生活アンケートは2回実施し、各学年会で分析を行い、生徒の情報交換と共通理解等を図った。	特別支援教育教科担任会を充実させ、学校と保護者との連携を図る。学年団との連絡を密にし、必要に応じて外部講師を招いた研修会を実施する。
	農業	○基礎学力の確実な定着と実験実習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、復習課題の設定と実習記録簿の期限内提出 100%</li> <li>・プロジェクト発表校内大会の参加 年1回以上</li> </ul>	B	課題・実習記録簿の提出は、大部分の生徒がしっかりと取り組むことができた。プロジェクト発表にも取り組めたが、2年生の取り組み方が不十分であった。	学習の習慣、提出物の期限厳守が定着するように、全ての農業科目で取り組んでいく。
全	事務	○教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の整備充実</li> <li>・校内安全点検の実施 月1回</li> </ul>	B	校内安全点検を定期的実施するとともに、随時の修繕要望にも迅速に対応した。	計画的に修繕を行い、継続して予算を要求していく。
般	1学年	○基礎学力の向上と充実した学習への取り組み ○進路目標の早期決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆勤率 65%以上</li> <li>・ホームルーム担任との面談実施 年5回以上</li> <li>・漢字テスト年間クラス平均 80点以上</li> </ul>	B	皆勤率は、徐々に下がり60%を割ってしまった。学習に取り組む姿勢が希薄であり、漢字テストについても取組にムラがある。面談については適宜行えている。	充実した家庭学習の取組が、学力向上及び基本的な生活習慣の確立には欠かせない。家庭との連携を更に強化する必要がある。
	2学年	○自己実現に向けた進路研究と進路決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆勤率 60%以上</li> <li>・進路室等を利用した進路研究実施 学期2回以上</li> <li>・漢字テストクラス平均 80点以上</li> </ul>	B	皆勤率は、目標にかなり近づきつつあり昨年度に比べて良くなっている。進路指導については、まだまだ意識が低いのでこれから意識改革をしたい。	学校生活に目的を持たせると、自ずと皆勤率は上がってくる。進路については、本気で取り組ませたい。
	3学年	○学校と家庭の連携強化による進路実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路面接実施 年3回以上</li> <li>・担任との面談実施 年5回(三者面談含む)以上</li> </ul>	B	個人・三者面談等、進路指導は、進路課や家庭との連携によりおおむね計画通り進めることができた。進路決定後の皆勤率が低下した。良い環境で、けじめある雰囲気醸成に努めたい。	進路意識の高揚を図るため、進路課との連携強化や各教科での意識統一を図る。担任・生徒の強い絆を作る環境整備も必要である。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。